

# 沿岸水産資源の持続的利用の推進及び新漁場等の調査

## II 沖合漁場調査

漁業資源課 田ノ本 明彦・荻田 淑彦

### 1 目的

高知県沖合の海山や大陸斜面露岩域の水深 200m から 600m 付近まではキンメダイ、ムツ、メヌケ類の深海性有用底魚類の漁場として重要性が高い。そこで、新調査船に装備したマルチビームソナーにより正確でわかりやすい海底地形図を作成して漁業者に提供し、操業利便性の向上を図る。

### 2 方法

調査には県漁業調査船「土佐海洋丸（80 トン）」を使用した。海底地形調査ではマルチビームソナー（Kongsberg Maritime 製 EM710RD）を用いて探査した。測位には DGPS 受信機（古野電気製 GP-150）を用いた。

平成 23 年度は、室戸岬南方の西室戸海丘で調査を実施した。調査海域及び調査日を表 1 及び図 1 に示した。

表 1 調査海域と調査日

調査海域	調査日
室戸岬南方（西室戸海丘）	H23 年 6 月 20～21 日

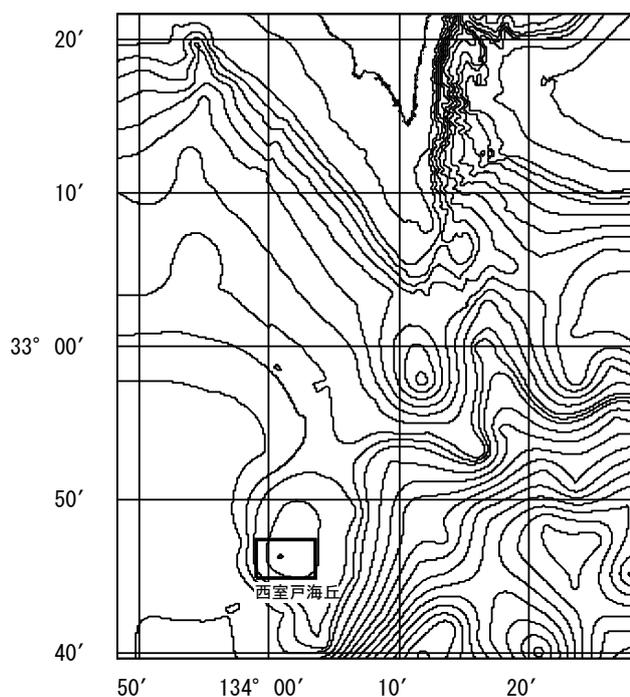


図 1 調査海域

### 3 結果

#### (1) 海底地形調査

調査海域の調査コースを図 2 に示した。調査コースの間隔は、水深及びマルチビームソナーの走査幅等を考慮して、0.17 マイル間隔に設定した。

得られたデータについては、データ解析ソフト（海洋先端技術研究所製 Marine Discovery）でスパイクノイズ等を除去した後、グリッド補間をおこなった。グリッド補間を行ったファイルをもとに、データ解析ソフト（環境シミュレーション研究所製 Marine Explorer）で作成した等深線図を図 3 に示し、3D 画像作成ソフト（海洋先端技術研究所製 ScanSwell）で作成した 3D 画像を図 4 に示した。

西室戸海丘のもっとも浅い部分は、北緯  $32^{\circ}45'59''$ 、東経  $134^{\circ}0'38''$  の水深 692m で、ここから西側は急峻な斜面となり、東側では比較的なだらかな斜面となっている。水深 700m 以浅の海域はほとんどなく、水深 800m 以浅の海域が東西約 7km、南北約 4km の範囲内で北東方向から南東方向にかけて峰を形成するような海底地形であった。

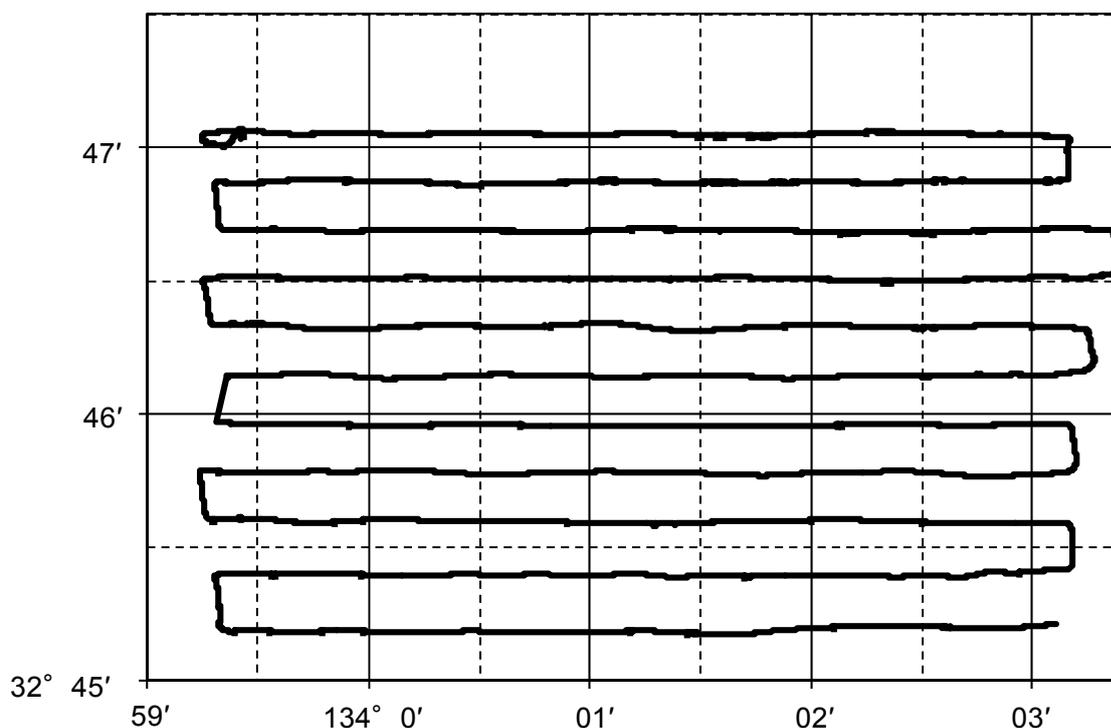


図 2 調査コース

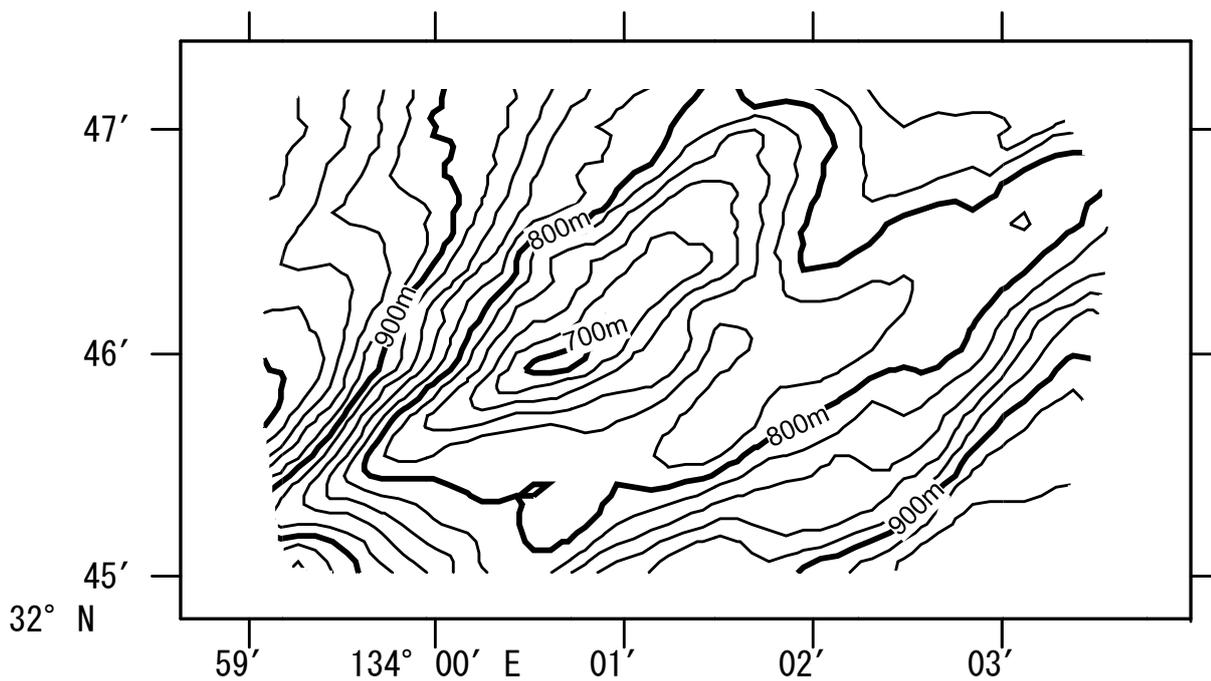


図3 等深線図

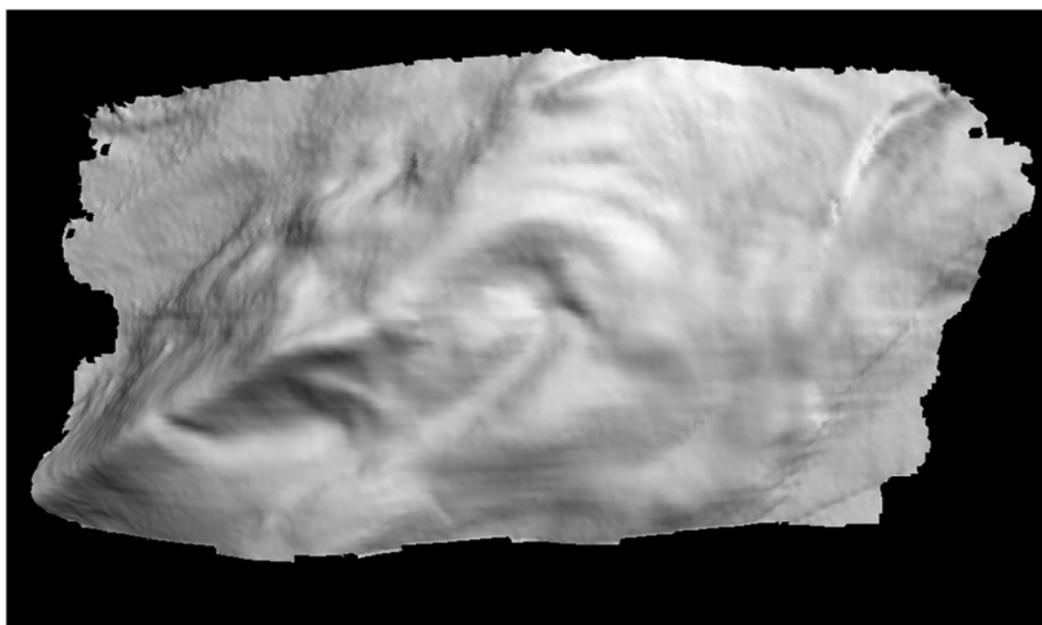


図4 3D画像